

第5学年 家庭科学習指導案

い組 男子19名 女子19名 計38名

指導者 日高 佳菜

1 題材 生活に役立つ物を作ろう I～古着の大変身～

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

この期の子どもたちは、目的に応じた縫い方で手縫いをする学習をしてきた。布を利用して自分でいろいろな物を作れるようになりたい、ミシンなどの製作に必要な用具が使えるようになりたい、ミシンを用いた裁縫に挑戦したいといった願いをもっている。また、自分の家庭生活を見つめ、家族の役割や家庭における自分の仕事についての学習を通して、自分は家族を構成する一員であることを実感し、「家族が喜ぶ物を作ってあげたい」という願いをもっている。

そこで本題材では、古着から生活に役立つ物を作るために、目的に応じて、布を裁ったり、縫ったりする活動を通して、古着のよさに気付くとともに、手順や方法を吟味したり、縫い方を工夫したりして、目的に応じた古着の加工方法を見出すことができるようになることをねらっている。また、ミシンの仕組みや取り扱い方、操作方法などの基礎的・基本的な技能を身に付け、家庭生活への関心を高め、家族のために自分が作ってあげたいという実践的な態度を高めることをねらっている。

これらの学習は、生活に役立つ布製品を、贈る相手や用途によって、一枚の布から包まれる物の大きさや形、厚みなどを考えて布を加工する学習へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

布には、保温性・通気性・伸縮性がある。また、柔らかく、肌触りがよく、丈夫で、色や模様、厚さが様々であるなどといった特徴があり、縫い合わせることで自由に形を変化させることができる。そのため、私たちの生活の中で様々な場面で使われ、生活になくってはならないものとなっている。古着を活用することは、使っていた時の思い出を残すことができ、環境にも配慮することができる。昔は、布が高価であったため、古着は目的に応じて縫い合わせたり、補強したりしながら再利用され、繰り返し使われていた。また、古着は、布端の始末が既にしてあり、元々の形を利用しやすいことから加工がしやすく、ミシン縫い入門期の子どもたちにとって製作しやすいというよさがある。

これらのことから、古着を生かし、生活に役立つ布製品を作ることは、製作する意欲を高め、目的に応じて縫い方や縫う順序などを考えたり、身に付けた知識や技能、生活を工夫する力を用いて自分の家庭生活を豊かにしようとする実践的な態度を育てる上から大切である。

そこで、本題材では、古着を用いるよさに気付き、家族の用途に応じた形や大きさに布を裁ったり、縫ったりする見通しをもって製作を進めることができるようになることや、製作に必要な基礎的・基本的な知識や技能を身に付けることを大切にする。その際、共通課題の製作から課題を明確にもたせる活動を取り入れる。さらに、共通課題を通して分かった解決方法をどのように自分が作りたい物への製作に生かしていくのかを考えられるようにしていきたい。

具体的には、まず、家庭から持って来た古着のよさについて発表し合ったり、古着を生かす先人の知恵について知ったりする活動を通して、古着を生かすよさを知り、製作してみたいという意欲を高める。次に、グループで共通課題に取り組み、課題を明らかにさせながら、解決する方法を考え、全体の場で説明し合う。そして、その課題に対して分かったことを生かして製作計画を立て、製作させていく。

これらの学習を通して、先人の知恵、今と昔との共通点や違い、古着のよさや、手縫いやミシン縫いを用いるよさに気付き、ミシンの正しい取り扱い方を身に付けて製作できると共に、家庭生活に役立つ物を製作することができるようになった喜びを実感することで、自分の家庭生活をさらに豊かなものにしようとする実践的な態度を高めることができる。

(3) 児童の実態（質問紙法、複数回答有り）

- | |
|--|
| ① 家庭生活の中でもっとできるようになりたいこと
料理21, 裁縫19, 掃除2, 洗濯1, アイロンがけ1 |
| ② 家庭科の学習がどのように生活に生かせるか
料理12, 家族のため9, 手伝い6, 自分のできることを増やす5, 大人になったとき4, 掃除や片付け3, 裁縫2, 家庭生活2, 豊かな暮らし1, 家事1, アイロンがけ1, 破れている物を直す1 |
| ③ 古着を利用するよさ
環境によい18, リサイクル12, ゴミを減らせる5, 昔の思い出が残る2, 経済的2, 作りやすい1, 思いが伝わる1 |
| ④ ミシン縫いの経験
ある8, ない30 |
| ⑤ 製作するときに気を付けること
安全面30, ずれないようにする1, 急がない1, 縫う場所を考える1 |
| ⑥ 製作計画での留意点
布を裁つ場所23, 縫う場所22, 縫う順番1 |
| ⑦ 学び方
身近な人にインタビュー12, インターネット9, 本7, 実際にやってみる6, 教科書5, 今までの学習をもとに3, グループ活動1, 失敗をもとに考える1, 家の道具を使う1 |

本学級の子どもたちは、①④から、もっとできるようになりたいこととして、裁縫と回答している子どもが、多いことが分かる。このことから、裁縫に対する学習意欲が高いことがうかがえる。これは、裁縫の経験が少なく、自分や家族のために何か作ってみたいという思いがあるからである。②から、家庭科の学習がこれからの生活に役立つということを感じていることが分かる。このことより、家庭科で学習したことを家庭で生かしていきたいという実践的な意欲が高いと考えられるので、学習したことがどのように生かせるのかを考える場を設定していきたいと考える。③では、古着の利用するよさについて、環境面から理解していることが分かる。このことより、古着を生活に役立つ物に加工できるという

ことは、環境面を考えた取組であること実感させることができると考えられる。④から、ほとんどの子どもがミシンの経験がないことが分かる。これらのことから、基礎的・基本的な技能を十分に身に付けさせる必要があることが分かる。⑤から、製作する時に気を付けることとして、安全面については、理解していることが分かる。⑥から、製作計画を立てる際に布を裁つ場所や縫う場所を決めることの必要性に気付いている子どもが多いことが分かる。しかし、実際に製作するときに必要な縫う順序や返し縫い、中表にして縫うことの必要性については、あまり気付いていないことが分かる。④⑤⑥から、ミシン縫いなどの経験がないため、贈る相手や作る目的に応じた「見た目のよさ」「丈夫さ」「使いやすさ」などといった製作上の視点の必要性には気付いていないことが分かる。⑦から、様々な方法で学習していきたいと考えていることが分かる。実際に行ったり、観察したりする活動を大切に、一人一人がよりよい方法を見出せるようにしていきたい。

このような結果から、子どもたちが学習したことを家庭で生かしたいという意欲や、製作したいという気持ちを大切にしていきたい。また、古着を利用するよさに気付かせ、手縫いやミシン縫いを生かしながら、基礎的・基本的な力の定着や生活を工夫する力を身に付けていけるようにしたい。

(4) 指導上の留意点

ア 古着を利用した製作への意欲を高めるために、家庭生活を振り返り、古着についての課題を考えさせる。また、家庭生活における布製品の役割を考えさせ、自分も家庭生活上に役立つ物を作ることができるといった意欲をもたせ、製作していくものを決定させる。その際、さまざまな布製品を観察させたり、触らせたりしながら製作する物のイメージをもたせるようにする。

イ 使用目的に応じて、製作上の課題に気付かせるために、グループごとに共通課題に取り組み、「使いやすさ」「丈夫さ」「見た目のよさ」といった視点から、自分たちの課題に気付かせる。また、基礎的・基本的な知識や技能を基にして友達と解決策を見出し、本番の計画を立てさせる。製作の際には、用具の安全管理や扱い方、縫い方を写真や映像などを活用して、いつでも提示できるように準備し、子どもたちの実態を確かめながら定着を図っていく。

ウ 自分の成長を実感することができるようにするために作品の発表会を行う。自分や友達の工夫の仕方やよさを全体で話し合い、古着を再利用して生活に役立つ物を作ることができたことを価値付けていく。さらに、今後の家庭生活において学習したことがどのように生かせるのか考えさせ、家庭での実践意欲を高めるようにする。

3 目 標

- (1) 古着のよさを生かしながら、生活に役立つ物を製作しようとする事ができる。
- (2) 手縫いやミシン縫いの特徴を生かして、目的に応じた縫い方を選んだり、手順や方法を吟味したりして製作計画を立てることができる。
- (3) 製作に必要な用具の安全な使い方がわかり、目的に応じた物を作る手順に沿って手縫いやミシン縫いで作品を製作することができる。

4 指導計画 (全 13 時間)

過程	学ぶ喜びや楽しさ	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
みつめる	昔も高価だった布を繰り返し使っていたのだから。古着を生活に役立つ物に変身させてみたい。	1 古着を再利用するよさについて話し合い、自分が作りたい物をイメージする。① <方法> ・人にゆずる ・バザーやフリーマーケット ・資源回収 ・作りかえる <よさ> ・環境を守る ・思い出を大事にできる ・加工しやすい <生活文化> ・高価だった布 ・補強 ・保温 ・刺し子	○ 古着に対する思いを高めさせるために、実物を用いて古着にまつわる思い出を語り合う。 ○ 日常生活を振り返らせ、環境面についても意識付けさせるために、古着となったものは、その後どうなるのかを考えさせ、ごみとして捨てられている実態から古着を再利用することのよさを考えさせる。
	つかむ	2 ミシン縫いのよさやミシンの仕組み、縫い方などの基礎的・基本的な力を身に付け、実技練習をする。②③ 基礎的・基本的な内容 ・ミシンの部分の名称 ・糸かけ ・直線縫い ・返し縫い ・方向転換	○ 布のよさや再利用するよさが昔からあることに気付かせるために、先人の知恵について実物や写真を提示し、話し合わせる。 ○ 細かく等間隔に縫えることなどミシン縫いのよさに気付かせるために、縫い目を観察させ、気付いたことを話し合わせる。
見通す	丈夫に早く縫うためにもミシンを使うとより加工しやすそうだ。ミシン縫いの仕方を知りたいなあ。	3 グループごとに共通するテーマに基づいて課題に挑戦する。④⑤⑥ 共通課題 ・縫い目がたくさん見えている。 ・ミシン縫いでは、曲線が縫いにくい。 など	○ 自分の作品作りに自信をもって取り組めるようにするために、また、友達と学び合いながら作品を作るための方法や視点に気付かせることができるようにするために、試し作りとして、グループごとに共通課題に取り組ませる。
追求する	ミシン縫いの方法が分かったぞ。実際に製作してみよう。	・使いやすい工夫 ・見た目よくする工夫 ・丈夫にする工夫 など	○ 課題に対する解決策を整理するために、ワークシートにうまくできたことや課題に残ったことなどを書かせ、実物やワークシートをもとにして話し合う。また、新たな課題についての解決策の視点も書かせる。
まとめる・生活化への意欲付け	早く丈夫に縫えるようになったけれど、ミシンでは縫いにくい所もあった。他のグループはどのようにしたのかな。	4 グループでの共通課題の結果をまとめる。⑦ 5 グループで解決した結果を発表し合い、情報交換したことをもとに製作計画を立てる。⑧(本時)	○ 課題に対する解決策を整理するために、ワークシートにうまくできたことや課題に残ったことなどを書かせ、実物やワークシートをもとにして話し合う。また、新たな課題についての解決策の視点も書かせる。
	曲線や細かい所は手縫いを利用すればいいのだから。他のグループの方法を参考に作ってみよう。	6 製作計画に沿って製作する。⑨⑩⑪⑫ 7 製作した作品を使った報告会をし、学習したことが自分の生活にどのように生かしているか話し合う。⑬	○ 自分のグループの解決方法や課題を他のグループと比較できるように、他のグループの発表内容を根拠として意見を交換できるようにする。 ○ 「使いやすい」「見た目のよさ」「丈夫さ」といった視点をもたせるために、共通課題での課題や解決策を振り返らせ、製作計画に生かせることはないかを考えさせる。 ○ 家族の一員として家族の役に立るということを実感させるために、家族から作品の感想を記入してもらう。 ○ 達成感が感じられるようにするために、各家庭で実践したことの報告会をし、今後家庭生活でどのように生かすことができるのか話し合わせる。

家庭

5 本 時 (8 / 13)

(1) 目 標

「見た目のよさ」「丈夫さ」「使いやすさ」という目的に応じた縫い方、縫う場所や順番などの工夫の仕方に気付き、理解することができる。また、分かったことを自分の作品に生かそうとすることができる。

(2) 本時の展開にあたって

本時の展開にあたっては、共通課題の取組を製作に生かすことができるようにするために、グループごとに製作した作品や製作時に用いたワークシートを提示しながら成果や課題を発表させる。その際、縫い方、縫う場所や順番の工夫などのよさをより実感させるために、作品に触れながら意見を交換させたり、自分の課題と比較させながらワークシートに書き込ませたりして、自分の製作に置き換えられるような学習を展開していきたい。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
見通す・つかむ	1 学習課題を設定する。 生活に役立つ物を製作するためには、どのような工夫をすればいいのだろうか。	(分) ↑ 5	○ 目的意識をもたせるために、本時の学習課題を設定させる。その際、前時までの学習を振り返らせ、最終的に自分の家庭生活中で生かせるようにすることを意識させる。 ○ 自分たちの作った作品に満足しているグループにも、よりよく作るための工夫に気付かせるようにするために、同じ条件の下に作った各グループの作品について発表させ、自分たちの作品との共通点と相違点に注目させる。 ○ 子どもたちが主体的に自分のグループでの共通課題の取組を発表できるようにするために、実物投影機を用いて、実物を示しながら説明できるようにする。
	2 共通課題で製作した作品の成果や課題についてグループ間で情報交換する。 共通課題 (Tシャツからクッション) で製作した作品 情報交換 解決できそうだ。 縫う場所を工夫する必要があるなあ。 中表にして縫うことで縫い目を目立たせずに縫えた。 曲線は手縫いで縫うと縫いやすかった。 縫い始めと縫い終わりは返し縫いをすると丈夫になる。 綿を入れてから首回りの所を最後に縫うと製作しやすい。 よりよくできそうだ。 縫い方を工夫する必要があるなあ。	25	
追求する	3 発表し合ったことを基に、自分の作品に生かせそうなことについて発表し合う。 自分のバッグ製作では、底になる部分の布端や縫い目が目立つと見た目がよくないので、中表にして縫おう。 縫う場所・縫う順序・中表 など 手縫い・ミシン縫い・縫う場所・返し縫い など 大きさ・ポケット・綿の量 など 自分がエプロンを作るときには、底にきく部分とひもの部分が外れないようにするために、返し縫いをしっかりしよう。	10	○ 自分の作品の製作計画を立てることができるようにするために、実物の共通課題作品で確かめたり、ワークシートで視点ごとに工夫を整理したりできるようにする。 ○ 「見た目のよさ」「丈夫さ」「使いやすさ」といった視点をもたせるようにするために、共通課題についての解決策や課題から製作に生かせることはないかを考えさせる。基礎的・基本的な知識の定着を図るために、理解が十分でない場合は、教師が補足説明や指導を行う。 ○ 製作の見通しをもたせるために、完成予想図を描かせる。その際、古着のどこをどのように利用するのか、作りたい物に応じてどのような縫い方をするつもりなのか、どのような順序で製作するのかを明らかにさせるとともに、次時に必要な材料を確認させる。
	4 学習のまとめをする。 手縫いやミシン縫いを使い分け、中表にして縫ったり、返し縫いをしたりすればいい。	↓ 5	
まとめ	5 製作計画を立てる。 中表にして縫って、綿を入れてから最後に首の所を手縫いで縫おう。	↓ 5	○ より具体的な製作計画が立てられるようにするために、縫う箇所や裁つ箇所、自分の作品に生かせそうな本時で気付いた工夫などを書き込ませるようにする。 ○ 本時の学習を振り返るために、振り返りカードを記入させる。
生活化への意欲付け	6 振り返りカードを記入し、本時の学習を振り返る。	↑ 5	